

4.平成27年度の学校評価報告書(目標設定・実施結果)

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 他者理解やコミュニケーション能力を育成するために国際理解教育を推進する。	<p>1 国際理解教育推進のために講演会等を実施し、国際理解教育への関心を高める。</p> <p>2 1学年の「総合的な学習の時間」での交流会やローテーション授業の中で生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばし、生きる力を育成する。</p> <p>3 各教科の内容や学年行事等において国際理解教育の視点を踏まえた取組を実施する。</p> <p>4 国際理解教育関連科目の選択者を増やし、さらなる活性化を図る。</p>	<p>1 講演会等の実施で生徒の関心を高められたか。</p> <p>2 適切な課題を設定し生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばせたか。</p> <p>3 国際理解教育の視点に基づく具体的な取組がなされたか。</p> <p>4 国際理解教育関連科目のさらなる活性化を図ることで、選択者は増えたか。</p>	<p>1 様々な立場からの講演会を実現することで、国際理解・他者理解への関心を高めることができた。</p> <p>2 多くの職員が関わるローテーション授業を実施していくなかで多様な課題を提示することができた。</p> <p>3 これまでの取組に関する情報共有を目的として教科代表者会議を開催した。</p> <p>4 国際理解教育関連科目の選択者は今年度より増加している。 ・第二外国語選択者へ校外のコンテストへの参加を呼び掛け、指導を行った結果、短期留学を実現した。</p>	<p>1 学校生活の様々な場面への広がりを意識した講演会の計画・取組を続けていく。</p> <p>2 交流会や講演会をより一層充実したものとするために実施計画の検討を進めたい。</p> <p>3 各教科での取組を進めるために今後も、教科代表者会議を通じた情報提供に努めていく。</p> <p>4 国際理解教育のさらなる活性化をめざして、国際理解教育に関わる様々な情報提供に努めていく。</p>	<p>(保護者)</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○ 異文化理解をすすめ、その中で他者を思いやる気持ちを育み、自国の文化理解を深めた。</p> <p>○ 国際理解教育を実践して行く中で、海外に目を向け、第一・第二外国語を生かした進路又はその修得を目指した進路をとる生徒がいる。</p> <p>○ 国際理解教育をキャリア教育に生かしているか、外部や異文化への眼差しを忘れない人に育てているか検証するべき。</p> <p>○ 学校目標の立て方に保土ヶ谷の特色が表れている。単なる勉強ではなく国際理解教育と生活指導を優先し、その次が学習となっている点が好ましい。</p> <p>カリキュラムにおける第二外国語の潤沢な配置や家庭科の専門教科の設置方針に好ましいものを感じる。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <p>講演会やローテーション授業等国際理解教育の取り組みを学校全体で行い、生徒の興味・関心を高めることができた。さらに取組の充実をめざし、職員の研修を含めた情報収集や国際理解教育関連科目の活性化を図る必要がある。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>交流会や講演会の充実を図るため、生徒のアンケート結果を活用すること等生徒の実態や意見を踏まえ、内容の検討を行う。</p> <p>国際理解教育の活性化をめざし、先進校への視察や研修会への参加等により効果的に情報収集を行い、本校に取り入れることができる新しい国際理解教育の取組について模索する。</p> <p>総合的な学習の時間を含むすべての教科科目において、国際理解教育を推進するという意識を全教員で共有し、学習成果を披露する場をできる限り設ける。</p> <p>日ごろの学習成果を確認し、意欲をさらに鼓舞するため、外部の検定試験受検やコンテスト等への参加を促進するための生徒への働きかけを教科・学年が連携して行う。</p>
2 指導方針に基づくきめ細かで粘り強い生活指導・生徒支援を実践する。	<p>1 ルール、マナーの指導を徹底し、規範意識や自己肯定感を育成する。</p> <p>2 携帯電話やスマートフォン等電子通信機器によるいじめ等を含む様々な問題行動の予防を目的とした啓発と早期発見に努める。</p> <p>3 「生活指導の手引き」を改訂し、全職員の共通理解によるきめ細かで一貫した生徒指導の実践により問題行動の未然防止に努める。</p> <p>4 部活動に係る活動環境を整備し、部活動の加入率を上げるとともに健やかな心身の育成を図る。</p> <p>5 学校行事に積極的に取り組む意欲を引き出し、生徒どうしの交流を通じて豊かな高校生活を体験させる。</p> <p>6 自主的な生徒会活動の活性化と充実を目指し、地域貢献活動等校外活動への積極的参加を促す。</p> <p>7 教育相談コーディネーターを中心に職員相互の連携を図り、教育相談体制を充実させる。</p>	<p>1 生徒の規範意識等が向上したか。</p> <p>2 問題行動の予防ができたか。</p> <p>3 職員の共通理解による指導をとおり生徒の問題行動が減少したか。</p> <p>4 部活動加入率が増加したか。また、環境整備により充実した活動が行われたか。</p> <p>5 生徒が学校行事に積極的に取り組み豊かな高校生活を送れたか。</p> <p>6 地域貢献活動等校外活動の場を増やすことができたか。</p> <p>7 生徒・保護者が利用しやすい教育相談体制が整えられたか。</p>	<p>1 遅刻指導について、35分LHRの時間から遅刻になることを徹底し、副担任が廊下でチェックする取組をして、遅刻数を減らすことができた。</p> <p>2 規範意識の育成や問題行動の未然防止のために年間をとおり様々な啓発活動を実施した。なかでもSNSの利用啓発に関してPTAと協働して講演会を実施することができた。</p> <p>3 生徒の実態に合わせ「生活指導の手引き」を改訂し、職員研修会で確認することができた。</p> <p>4 部室のなかった部に部室を配当するなど、環境整備を行った。部活動加入率に大きな変動はないが、昨年度活動実績のなかった部が今年度活動を再開した。合同チームでなく、単独チームで試合出場できた部があった。</p> <p>5 文化祭の閉祭式は生徒主体の活動で内容に工夫が見られ、昨年度以上の盛り上がりを見せた。生徒会本部役員が、各委員会を担当し、リーダーシップを発揮した。</p> <p>6 かわしまホームでのクリスマス会は、生徒が企画運営し、生徒会本部や文化部が複数参加した。 ・震災復興イベント「帷子川に鮭の稚魚を放流する会」に参加した。</p> <p>7 スクールソーシャルワーカーの活用に関する研修会を実施し、情報提供を行うことで学校職員を通じた支援の幅を広げることができた。</p>	<p>1 LHRや学年集会などを通じてより一層規範意識の向上を図る。</p> <p>2 啓発については、継続的な取組が必要である。早期発見は、教員のみでは難しい点があり、生徒の協力も必要である。</p> <p>3 生徒の実態に合わせた手引の改訂を続ける。</p> <p>4 部長会で、各部活間の問題点や部活動全体の活性化にかかる課題等を話しあい、共有し、学校全体で改善を図ることのできるようにしていく。</p> <p>5 文化祭では、生徒会役員と文化祭実行委員がより連携して企画運営する方向を模索する。委員会では、評議会を活用し、生徒会本部役員と各委員会との連携を図る。</p> <p>6 学校外の活動への意識がより多くの生徒に広がっていくように工夫し、新たな地域貢献活動も模索していく。</p> <p>7 教育相談に関する情報提供などを通じて生徒に直接接している職員への支援を継続する。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○ 先ず、挨拶を忘れない態度に好感が持てる。服装・身だしなみもほとんどの生徒が乱れていない点を評価できる。</p> <p>○ SNSの利用啓発に関してPTAと協働して講演会を実施するなど学校全体での啓発活動の取り組みを評価する。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○ インクルーシブ教育を進める過程において、校内カウンセラーやSSWの有機的な活用がなされた。</p> <p>○ 学校目標の立て方に保土ヶ谷の特色が表れている。単なる勉強ではなく国際理解教育と生活指導を優先し、その次が学習となっている点が好ましい。</p> <p>カリキュラムにおける第二外国語の潤沢な配置や家庭科の専門教科の設置方針に好ましいものを感じる。</p> <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <p>組織的で粘り強くきめ細かな生活指導や啓発活動の継続により、基本的な生活習慣の定着、規範意識の醸成、問題行動の未然防止の点において、一定の成果を挙げることができた。</p> <p>部活動や文化祭等学校行事における生徒の活動を支援し、活動の活性化やリーダーシップの育成の点で成果が見られた。さらに部活動や学校行事に主体的に参加する生徒の数を増やし、学校外を含めて生徒の活躍の場を増やす必要がある。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上に向けて、職員全体が組織的に取り組む本校の基本姿勢は維持しつつ、生徒の良い点は積極的に褒めるなど生徒の達成感や自己有用感を育むための日常の言葉掛けや成功体験を積み重ねることができよう機会を与える。学校内外での生徒の活動について、主体性を育むことを重点に見守る姿勢を職員が共有し、行事等の活動計画に反映させる。</p>

<p>3 確かな基礎学力の定着へと繋がる教育課程を編成し授業改善を実施する。</p>	<p>1 「言語活動の充実」をテーマに組織的な授業改善を推進する。 2 小テストや課題などを適切に課すことにより、家庭学習の習慣化を図る。 3 教員のICT活用能力を高め、機器を活用したわかりやすい授業を目指す。 4 1、2、3年次において基礎力診断テストを実施し、教科指導や保護者面談、学級懇談会等で活用する。 5 今年度完成したカリキュラムの検証を踏まえて、基礎・基本の一層の定着を目指し、教育課程の検討を進める。</p>	<p>1 テーマに基づいた研修会等を実施し、授業の改善が進んだか。 2 基礎・基本や家庭学習の習慣が定着したか。 3 授業に活用できる機器の整備ができたか。ICT活用能力を高めるための職員研修を実施したか。 4 基礎力診断テストの結果を有効活用し、生徒・保護者に還元したか。 5 教育課程の検証・検討が進められたか。</p>	<p>1 教科・在職経験年数ごとの研修会に加えて、様々な世代が意見交換ができるような職員全体の研修会も実施することができた。 2 生徒の理解度に合わせた授業方法や課題などを工夫し、生徒の基礎学力の定着や家庭学習の習慣化を図った。 3 ICT活用のための機器の整備を進めることができた。教科においてはICTを効果的に活用し、生徒の理解を助け、表現の可能性を広げることができた。 4 基礎力診断テストを全学年で実施し、結果を生徒・保護者に伝えるとともに授業内容に反映した。 5 授業時間の確保や授業内容の検証・検討を進めた。</p>	<p>1 共通のテーマに基づく研修会の中に、アクティブラーニングへの理解を深める場面の設定を進め、より一層組織的な授業改善を進める。 2 教材の内容などについて、教科内で情報を共有して、さらに授業改善を進める。 3 今後も実習教材の精査と併せてICTの有効活用について、研究・研修を計画していく。 4 来年度も実施し、情報を有効活用していく。 5 今後も検証・検討を進めていく。</p>	<p>(保護者) ○ 日々の小テストなどへの対策のためか、以前より自宅学習の時間が増えたと感じられる。 (学校評議員) ○ さらに学力を伸ばさせる為、本校生徒の力を信じ、自己肯定感を高めながら、学習に本気で取り組むよう我慢強く取り組んで欲しい。 ○ 学校目標の立て方に保土ヶ谷の特色が表れており、単なる勉強ではなく国際理解教育と生活指導を優先し、その次が学習となっている。カリキュラムにおける第二外国語の潤沢な配置や家庭科の専門教科の設置方針に好ましいものを感じる。 (その他)</p>	<p>(学校評価) 職員研修会の実施やICT機器の効果的な活用、基礎力診断テストの実施等により、基礎的学力や学習習慣の定着への取組が進んだ。今後は基礎的学力を土台に、主体的に学ぼうとする意欲と思考力・判断力・表現力をさらに伸ばすための組織的な授業改善が必要である。 (改善方策等) 主体的に学習に取り組めるよう、意欲・興味・関心を深める授業づくりを進めるための授業見学・授業研究を、年間を通して実施する。 アクティブラーニング型授業について研修を実施し、本校生徒の実態に合わせた形での導入を図る。</p>
<p>4 キャリア教育実践プログラムに基づき望ましい基礎的学力・汎用的能力を育成する。</p>	<p>1 キャリア教育実践プログラムに基づく授業・LHR・個人面談等を展開し、基礎学力と規範意識を定着させるとともに、基礎的・汎用的能力を育成する。 2 進路をテーマとした3学年の「総合的な学習の時間」の授業内容の充実を図るとともに、キャリアガイダンスやキャリアカウンセリング等を充実する。 3 進路指導室の機能を充実し、生徒のキャリア・プラン作成や進路決定を支援し、生きる力を育成する。 4 キャリア教育について保護者の理解を深めるための取組を進める。</p>	<p>1 生徒の規範意識や基礎的・汎用的能力を育成できたか。 2 授業内容やキャリアガイダンスなどを生徒の進路選択に活用できたか。 3 生徒のキャリア・プラン作成や進路決定を支援し、生きる力を育成できたか。 4 キャリア教育について保護者の理解を深めるための取組がなされたか。</p>	<p>1 1・2学年で企画する進路バスツアーや全学年で実施するキャリアガイダンスを適切な時期に充実した内容で実施し、生徒の規範意識や基礎的・汎用的能力の育成を図った。 ・「インターンシップ」や「仕事のまなび場」への参加を呼び掛けたりするなどして生徒の進路意識を高めた。 2 3年の「総合的な学習の時間」の内容を充実させ、進学・就職ともに個々に適した進路実現達成への支援を継続的にすることができた。 3 1・2学年では論作文指導、3学年では「志望理由書」や「履歴書」の書き方を繰り返し指導することで望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒のキャリア・プラン作成から進路実現までの手助けを行うことができた。 4 保護者面談期間中に伝えるべき適切な進路情報を学年ごとに事前に確認し、適切な情報提供を保護者にすることができた。</p>	<p>1 各学年の進路指導関係企画の内容を充実させるとともに、「インターンシップ」「仕事のまなび場」への参加者を増やしていく。 2 進学では受験形態別の適切な指導内容、就職では公務員希望者への効果的な指導内容など個々の進路希望に応じた支援策の検討を引き続き行っていく。 3 学年進行に沿って徐々に職業観・勤労観を高め、進路意識を向上させていくことができる適切な支援内容を引き続き検討していく。 4 保護者に学校の進路支援体制を理解してもらうための情報発信の方法や機会をこれからも検討していく。</p>	<p>(保護者) ○ PTA広報誌の記事を見て、本校の進路決定率の高さを改めて認識した。担任始め進路指導への熱意を感じる。 ○ 生徒たちは、キャリアガイダンスやプロによる小論文添削指導に大いに刺激を受けているようだ。 (学校評議員) ○ キャリアアドバイザーは地区で1名ときくが、設置をさらに推進すべきではないか。 ○ 国際理解教育をキャリア教育に生かしているか、外部や異文化への眼差しを忘れない人に育てているか検証すべき。 (その他)</p>	<p>(学校評価) 授業や様々な進路行事、校外での活動等を通して、生徒の自己理解を深め、進路意識を高め、希望進路の実現につなげることができた。担任が進路支援グループとの連携の下で生徒一人ひとりの理解に努め、保護者との連携を深めながら粘り強く丁寧な進路支援を行うことができた。 インターンシップ等校外の活動に参加する生徒を増やし進路意識を高めたり、進学希望者への支援をさらに充実させる必要がある。 (改善方策等) LHRや進路説明会等で進路関連の情報発信を効果的に行う。 キャリア教育について保護者の理解を深めるため、多様な進路希望にきめ細かく対応している本校の取組について広報活動や説明会で情報発信する。</p>
<p>5 地域のなかで成長する力を育むために地域連携を推進する。</p>	<p>1 近隣の自治会及び隣接する特別養護老人ホーム「かわしまホーム」等の行事により多くの生徒を参加させたり清掃等の美化活動を行わせたりすることで、地域との連携を充実させる。 2 学校説明会・ホームページ等をおして学校行事・生徒活動・部活動を積極的に広報する。 3 地元の小中学校との連携を強め、授業の専門性の向上を目的とした交流を深める。</p>	<p>1 地域との連携を充実させ、深めることができたか。 2 積極的な広報活動により本校の特色が正確に周知されたか。 3 地元の小中学校との連携を充実させ、交流を深めることができたか。</p>	<p>1 「お茶とお花の会」を実施することで、近隣自治会および「かわしまホーム」の方々と生徒との交流を深めることができた。 ・地域清掃活動を計画的に実施した。 2 学校説明会を3回実施し、学校の魅力と特色をアピールした。 ・ホームページを随時更新し、学校の様子の広報に努めた。 3 近隣小学校の授業を見学する機会を設定し、職員へ参加を促した。</p>	<p>1 近隣住民への広報をより一層積極的に行うことで、活発な学校行事展開へと繋げていく。 2 学校説明会についてはより一層魅力をアピールできるように内容を検討する。 ・ホームページがよりすみやかに更新できるように校内のシステムを改善する。 3 小・中学校との交流をさらに深め、授業の専門性を高めるために授業研究会等に参加する機会を設定したい。</p>	<p>(保護者) 1 PTAとしてクリスマス会のプレゼントを用意した。プレゼント自体は細やかなものだがジュニアレッドクロスの部員達のメッセージカードや生徒会役員の出し物がホームの高齢者の方に笑顔を届けた。 1 「お茶とお花の会」に参加し、特養ホームの方より毎年この会を楽しみにしていると感じ心が和んだ。 (学校評議員) 3 近隣小中学との教員間交流を深める為、西谷中学へ授業参観に赴き、中学校教員との情報交換等を行った。 (その他)</p>	<p>(学校評価) 地域との交流はある程度はできたが、部活動単位での活動を含めてさらに交流先を増やす必要がある。もっと生徒に地元意識を持たせたい。 (改善方策等) 学校ホームページ上での広報活動に力を入れ、交流先を増やす。 近隣小中学校との教員間交流は、授業改善に大変効果的であるので、授業見学を継続する。</p>
<p>6 信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p>	<p>1 事故・不祥事防止を徹底し、信頼される学校運営を行う。 2 大規模災害発生時に備え、生徒の防災意識を高め、防災体制と安全対策を一層強化する。</p>	<p>1 研修や職員間のコミュニケーションなどにより、事故・不祥事を未然に防止できたか。 2 生徒の防災意識を高め、防災用品や防災体制を充実させ、安全対策を推進することができたか。</p>	<p>1 全職員により策定した不祥事ゼロプログラムに基づき、研修会や個別面談等を実施した。 2 大規模災害の発生に備えて、防災に係る行事を3回行った。実際の徒歩での帰宅経路に合わせて帰宅下校班を調整した。</p>	<p>1 事案発生時の対応、報告、再発防止について職員間の情報の共有に努める。 2 防災訓練は、2年続けて雨天であったため、グラウンドへの避難訓練を実施したい。また、防災教室については、実施時期を検討していく。</p>	<p>(保護者) (学校評議員) 1 不祥事ゼロプログラムは当然取り組むべき方法論であり、不祥事がないことを常態とせねばならない。 2 震度5以上の震災対策として、保護者引き渡し可能な生徒への教員引率体制や学校待機生徒への食料確保等がなされている。 (その他)</p>	<p>(学校評価) 事故不祥事防止について研修や面談を実施し、風通しの良い職場環境づくりに努めた。 実効性を伴う防災訓練の実施は不十分であったため、実施形態を含めて検討する必要がある。 (改善方策等) 事故不祥事防止について、日常の相互の声掛け等を含めて継続して取り組む。 防災用品や防災体制の確認を含め、必要な見直しをする。</p>